

真宗大谷派（東本願寺）天満別院

2021/ 6/1
No.679
大阪市北区東天満 1-8-26
06-6351-3535
http://www.tenma-betsuin.jp
代表者 輪番・武宮 信勝

RokujiJo

Shinran 50th 800th



生きづらさを生きていく

武宮 信勝

墓地に咲く桔梗（撮影者 矢裂 隆司）

法要・行事予定

6 月		7 月	
5 日	同朋の会（中止）	11 日	從如上人御祥月御命日（8 時）
12 日	闍如上人御遠夜・常永代経（14 時）	12 日	闍如上人御遠夜・常永代経（14 時）
13 日	闍如上人御命日 兼日中（8 時）	13 日	闍如上人御命日 兼日中（8 時）
18 日	存如上人御祥月御命日（8 時）	17 日	天満別院合唱団「みのり」（※状況判断）
21 日	責任役員会（15 時）	25 日	宣如上人御祥月御命日（8 時）
24 日	夏の御文法要（13 時 30 分） 墨林 浩師（第2組 光照寺） 「一念発起平生業成の宗旨」	27 日	定例法話（13 時 30 分） 小松 裕子師（第15組 泉勝寺） 宗祖聖人御遠夜
25 日	通常院議会（15 時）	28 日	宗祖聖人御命日 兼日中（8 時） 法話：輪番 武宮 信勝
27 日	宗祖聖人御遠夜（14 時）		
28 日	宗祖聖人御命日 兼日中（8 時） 法話：輪番 武宮 信勝		
※ 諸行事につきましては、感染状況をみて判断致します。			

今月の伝道掲示板

我必ず聖に非ず
彼必ず愚かに非ず
共に是れ
凡夫ならくのみ
—— 聖徳太子 ——

告知

門徒会総会のご案内

日時 6月24日（木）16 時

場所 天満別院 1階講堂

協議内容

天満別院門徒会

・2020年度事業・会計報告

・会計監査報告

・2021年度事業計画

その他

編集後記

コロナウイルスの猛威がなかなか止まりません。オリンピック開催まであと二ヶ月となりました。本来ならば楽しみにしてみんなで応援したいところですが、今の状態ではなかなか心から応援する気になれないのは自分だけでしょうか？

やっとワクチンの接種がはじまりました。医療従事者のことを思うと頭が下がります。今一度日々の行動について考えてみませんか？
(K)

第4次コロナ感染によって、緊急事態宣言が各都道府県に拡大していることは、誠に嘆き悲しいことであります。まさに我々は生きづらさを生きていると言わざるを得ません。亡くなって逝かれた一万二千人を超える方々、今も重症にあつて苦しんでいる一千三百有余人の方々に悼み、励ましの言葉を失います。

去る5月17日、13年間も訴え続けたアスベスト（石綿）訴訟の判決が最高裁で出た。翌、18日菅首相は首相官邸を訪れた原告団に対し「長きにわたる負担や苦しみ、家族を失った悲しみは察するにあまりあり、言葉もない。責任を痛感し、真摯に反省をして、政府を代表してみなさまに心よりおわび申し上げる」と述べた。特に夫と長男と3人で大工として数十軒の住宅を建ててきた大阪春子さん（77）は、夫を65才・長男46才を石綿にむしばまれ、中皮腫で亡くした悲しみを負い「被害者に同じ苦勞をさせたくない。裁判をせずに被害者が救済される制度を作って欲しい」と首相に訴えた御姿は、今も脳裏に焼きついていている。1975年から約30年間にわたり、火や熱に強く安価な建築資材として高度成長時代に多用されたアスベスト。名の由来はギリシャ語で「永久不滅」という意味。しかし直に吸い込み続けると「石の肺」化に苦しみ、死期をはやめてしまう。経済最優先がもたらした「人の命」尊さが問われる大きな機縁となった。

桔梗（表題写真）の花言は「誠実」「正直」とある。一輪の桔梗から、今だからこそ生きづらさのただ中にあって、お互いに「生きづらさ」共感し、阿弥陀仏の御本願に耳をそばだてて、誠実・正直に「ここで生きぬく力」を聞信していきましょう。

桔梗やたぐ在るままに成るままに

『遠嶺』荒川清司

夏の御文

ゲノオフィミ

法要

日時

6月24日(木)
午後1時30分
～3時30分

講題

「一念発起
へいぜいごうじょう
平生業成の宗旨」

ご講師

墨林浩師(光照寺)

ご講師からのメッセージ

蓮如上人は、よく知られている『五帖御文』八〇通はじめ、約三三〇余通の『御文』をその生涯で記されたと言われています。そして特に『夏御文』四通は、明応七年という亡くなられる前年、八四歳の五月、六月、七月に記された御文です。その中で上人は、私たちに、「御ころをすまて、眠りをさましてねんごろに聴聞候え」「御ころをすましてよくよくきこしめ候うべし」「御耳をすまして御きき候え」と、ひたすら聴聞を重ね、信心決定せよと御教化されています。しかし現実には「人目ばかり名聞の体たらく、言語道断あさましくおぼえ候う」と嘆かれ、聴聞といいながら「鹿の角をはちのさしたるよう」と戒めておられます。

まさに上人は、諸行無常、生死無常の中にある私達に、「あなたは、何を根拠として生きているのですか」と問い^{ただ}糾していただきるのではないのでしょうか。共に尋ねてみたいと思います。

Q&A

コロナが理由で、お骨に還った方でもお葬儀するのですか？



答え

新型コロナウイルスの感染拡大が収まらず、1年以経った現在も感染者数・死者数が増え続けています。新型コロナウイルスに感染して入院すると、家族とも面会出来ず、そのままお亡くなりになればほとんどの場合、ろくに対面や葬儀も出来ないまま火葬され、お骨となって帰ってくるのを待つしかありません。芸能人が亡くなった際の遺族のお話などを聞いていますと、本当に悔しさや無念さが伝わってきます。しかし先に火葬したからといって、葬儀が出来ない、葬儀をしないということはありません。そもそも「お骨葬」(お骨

の状態で行う葬儀)というのは地方の習慣や、故人の亡くなり方によっても行われていたもので、コロナで始まったものではありません。亡き人は私たちに身業説法(自らの身をもって教え伝える)として下さっています。人はどのような人生を送ろうともいつか必ず命を終えていかねばならないし、いつ何どき、どのような形になるかわかりません。まして今のコロナの世の中を誰が想像したでしょう？本当に人の生き死にはわかりません。そのことを亡き人を通して教わるのです。そしてそのような厳しい人生をどう生きていいかわからず不安な私たちが、葬儀やその後の仏事で仏さまの教えと出遇って行くのです。葬儀をしないと尊い機会を失うことになります。派手な葬儀をする必要はありません。お骨であってもしっかりと勤めてください。(第6組 角善寺 梅田 弘則)

報告

仏前結婚式

去る5月22日(土)、天満別院において安間 観志様、朋子様の仏前結婚式を執り行いました。安間さんは、コロナ禍で一年引き延ばしての挙式となりました。ごく身内だけの式となりましたが、やっと迎えた喜びと二人の決意・安堵感がひしひしと伝わる結婚式でした。



真宗の結婚式は、阿弥陀如来の尊前で、誠に深い因縁によって遇う事の出来たお二人が、その一生を共に生きていこうと誓いをたてあう厳粛な儀式です。ご結婚おめでとうございます。

告知

同朋の会中止のお知らせ

6月5日(土)に予定されていましたが同朋の会は、現在のコロナウィルス感染状況により、中止となりましたことをお知らせ致します。

次回の同朋の会は、8月5日(木)となります。詳細については、当別院ホームページ、もしくは機関紙「六字城」にて掲載致します。

皆様のお越しをお待ちしている
別院の「お内仏」間

